

学校経営目標 志高く 美しく

学校教育目標

自分を大切に 人を大切に ふるさとを大切に
しなやかに たくましく生きる子どもの育成
「チャレンジ！藤江っ子」
～未来へ向かってアップデート～

【子どもの実態】

- ・相手意識、目的意識をもって話したり、書いたりすることを意識して表現しているが、まだ向上の余地がある。
- ・今日授業ですることが分かり、準備をしている児童82%
- ・自己肯定感が高く、学習規律が整っており、ICTを活用して学ぶことができる。
- ・自分で判断し意欲的に学ぶことに課題がある。
- ・情報を整理しながら思考する力が不十分である。

21世紀型“スキル&倫理観”

学校まるごと学びの場～自分で考え 自分で選び 行動する～

主体的に学ぶ力

クリエイティブに！

- ・学びをつなぎ、比較・検討しながら自分の考えを表現する力
- ・多様な表現方法を身に付け、効果的に伝える工夫をする力
- ・協働し、よりよい未来を創り出そうと意欲的に取り組む意欲・態度

思考力・判断力・表現力
アグレッシブに！

- ・互いの考えを認め、類似点・相違点を明らかにしながら、根拠を示して自分の考えを表現する力

自己形成力

ポジティブに！

- ・目標をもち、目的を明らかにして、投げ出さずに最後までやり遂げようとする力

研究主題

主体的に学び続ける子どもの育成

～自己の学びを自覚し、豊かな自己表現力を育む授業づくり～

研究仮説

生活経験や既習事項をもとに付けたい力を明確にし、一人一人の学びを大切にしながら学び合う場を工夫することで、自己評価・相互評価で自分の成長を実感できれば、主体的に学び続ける児童の育成を図ることができるであろう。

研究内容

- ① 授業づくりの視点
～「分かった！やってみよう！！」があふれる授業づくり～
- ② 指導方法の工夫（教材研究の充実）
～ 学びをつなぐ、学びでつながる、学校まるごと学びの場 ～
- ③ 個に応じた指導の充実
～「一人一人の学びを大切に、どの子どもみんなに意欲・自信を！」～

検証指標

- ① 「学びのアンケート」の児童肯定評価85%以上
- ② 単元の振り返り
自分の学びを振り返り、その変容に気づくことができた児童（85%）
- ③ 「学びの伸び」テスト（5月）・学力標準テスト（1月）昨年度以上

めざす授業の姿 ～創造的思考を培う授業～

- ① 単元のゴールを共有し、1時間の中で児童につけたい力を明確にした授業
- ② 生活や経験、他の教科・領域と関連付けながら、児童自らが課題を見つけ、主体的に考え、表現する授業
- ③ 授業の終わりの振り返り（自己評価）を通して、児童が学びの変容を実感し自己肯定感を高めることのできる授業
- ④ 学びを通じた関わり合う場の相互評価で自分の成長を実感し、自己肯定感を高めることのできる授業

(1) 研究内容 ～主体的に学び続ける子どもの育成～

① 授業づくりの視点～「分かった！やってみよう！！」があふれる授業づくり～

ア 授業計画

- ・「つなぎの年間計画」活用による途切れない学び
- ・ゴールイメージを子どもと共有し、つける力が明確な単元づくり

イ 一人で学ぶ，みんなで学ぶ

- ・児童自らが課題解決のために何が必要か選び、決めて取り組む学びの過程の充実
- ・事前にじっくり考えた意見を交流し思考が深まる授業展開
- ・相手を意識した、分かりやすい表現（言葉・図・ICT）
- ・ICTの効果的な活用
- ・「ファシリテーター」としての教師の役割

「表現力=自己主張の力」の獲得から、「コミュニケーションを通じたつながりあう力」の獲得

ウ 振り返り

- ・児童自らが学びの変容を自覚できる振り返り
- ・1時間の学びが次の学びにつながるように
- ・単元を通して、つけたい力がどうだったか振り返ることができるようになる

【振り返りの視点】

- ・今日分かったこと
- ・「これまでの考え方が使えた！」「おもしろい」と思ったこと
- ・友だちの考え方で「すごい！」と思ったこと
- ・もっとやってみたいと思ったこと
- ・これまでよりも深まった、広まったと思うこと

友達の考え・他教科・身の周りの事象と比較することを意識して書かせる

② 指導方法の工夫 ～ 学びをつなく、学びでつながる、学校まるごと学びの場 ～

ア 学び合うための場の工夫

- ・同学年・異学年・他校交流を通して、自己表現力を磨く

イ 学びの力をつけるために

- ・視覚的に情報整理・・・・・・・・分かる情報を書き込む 図や絵で表す
- ・根拠を明確に思考・・・・・・・・理由を示す
- ・条件に沿って表現・・・・・・・・問われていることに沿って答える

ウ 豊かな読書経験

- ・読書を通して、想像力や語彙力を豊かにする（年間目標冊数60冊以上）
- ・読書を通して、つながりあう「読書のわ！」「読書郵便」（5冊以上）
- ・読書の輪に返事を返す（3回以上）

③ 個に応じた指導の充実 ～「一人一人の学びを大切に、どの子どもみんなに意欲・自信を！」～

ア 個のつまずき、学びの変容に対する分析と手立てを科学的にアセスメントをする

イ 学びの根底を支える基礎学力の定着（家庭学習、学びタイム、タブレット学習の活用）

ウ 発展的・探究的な学び、興味関心を広げ・深める自学「ステップノート」の取組

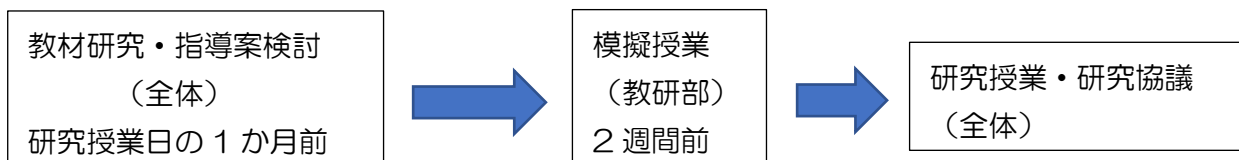
(2) 研究体制

①グループ

高学年グループ（4・5・6年，な2）

低学年グループ（1・2・3年，な1）

②授業研究までの流れ・スケジュール



(3) 研究年間計画

月 日	内容	学年・授業者	備考
4月27日(木)	研究構想	全体	
5月10日(水)	教材研究		
5月29日(月)	研究授業①	6年 算数	
5月30日(火)			精華中学校区合同研修(精華中)
6月22日(木)	研究授業②	1年 国語	
6月27日(火)	教材研究	I C T	
7月 6日(木)	研究授業③	5年 体育	
夏季休業中	1 学期研究授業の検証(実践のまとめ・改善指導演)		
	指導演作成・検討(特別支援学級・2 学期の研究授業)		
	道徳参観日 指導演作成・検討		
	図工 実技研修 ※検討中 版画(彫り方・白黒の比率・線の種類・向き)		
8月8日(火)	講話	特別支援教育	
9月21日(木)	研究授業④ 特別支援教育	なかよし1組 なかよし2組	一斉研修 ※他校参観者
9月15日(金)	道徳参観日	全学級	
10月 5日(木)	研究授業⑤	3年 国語	
11月16日(木)	教材研究		
11月17日(金)	研究授業⑥	2年 算数	精華中学校区合同研修(藤江小)
12月 1日(金)	研究授業⑦	4年 社会	
1月30日(火)			精華中学校区合同研修(金江小)
2月 8日(木)	研究のまとめ	全体	

※ 昨年度講師の先生を招聘した研修

	講師	内容	備考
①	山田 充先生 (廿日市市特別支援アドバイザー)	特別支援	4/8, 8/26, 11/27, 2/10
②	松岡 純夫先生 (ふくやま子ども造形教育研究所)	図画工作科実技 研修	造形的な制作(道具や自分で集めた材料の活用について)…8/30
③	鈴木 直樹先生 (東京学芸大学 教授)	体育科授業研究	授業研究指導講話 ICT 機器活用(ハートレート)体づくり運動… 11/7 ICT 機器活用(遠隔体育) ネット型ゲーム ICT 機器活用(メタバース) 表現運動…3月 2・3日

(4)「学びのアンケート」について(4月・10月・2月実施)

①ねらい

- ・ 児童の「学びの意識」について客観的にとらえる。
- ・ 児童の学びの意識を高める。

②内容

【 学びのアンケート 】

- 5 よくあてはまる 4 少しあてはまる 3 どちらともいえない
2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

	質問項目
思考力	1 新しいことを学習するとき、今までに勉強したと結び付けて学習していますか。
	2 学習するときは、計画を立ててから始めていますか。
	3 自分の力を高めるためのよりよい方法を見つけて学習していますか。
	4 自分に必要な学習を考え、次につながる予習や、学んだことを定着させる復習をしていますか。
主体性	5 むずかしいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。
	6 目標を持って学習していますか。
	7 人の意見を聞いたときに、自分ならどうするか考えていますか。
	8 話し合いの時に、自分の考えを伝えていますか。
	9 何かをするときは、自分で判断して行動していますか。

【昨年度の研究のまとめ】

1 検証指標について

(1) 検証指標①—「学びのアンケート」の児童肯定評価85%以上—(94%)

	質問項目	児童肯定評価
思考力	1 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強していますか。	100 (+7.2)
	2 勉強をするときは、最初に計画を立ててから始めていますか。	94.4 (+10.5)
	3 勉強のやり方が、自分に合っているのかどうかを考えながら勉強していますか。	94.8 (+13)
	4 勉強をする前に、これから何を勉強しなければならないかを考え、予習や復習をしていますか。	91.3 (+15.7)
主体性	5 自分には、良いところがあると思いますか。	95.7 (+12.5)
	6 むずかしいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。	93.2 (+4.1)
	7 将来の夢や目標を持っていますか。	93.2 (+1.8)
	8 人の意見を聞いたときに、自分ならどうするか考えていますか。	94.9 (+6.7)
	9 話し合いの時に、自分の考えを伝えていますか。	90.9 (+0.6)
	10 何かをするときは、自分で判断して行動していますか。	94 (-0.8)

肯定的評価を持つ児童が増えた。中でも、「今までに勉強したことと関係あるかどうかを考えながら勉強している」は100%で、新しい単元であっても学んだことを活かし学習に取り組みうとする姿勢が見られる。単元の始めに計画を立て、事前にじっくり考える時間を確保することは効果的であった。

次年度も「どんな学習が必要なのかを関連付けながら予習・復習する」「自分の考えを伝える」ことをより意識させるため、単元のゴールと既習事項、他教科・領域、生活とのつながりを意識し、事前に考える時間を確保する。また、児童自らが学びに向かう意欲を高めるため、ふり返りの時間を確保し、記述を見取り、良い所を認めるコメントをし、自己肯定感を高める。

(2) 検証指標②—1時間の授業の中に自分の変容に気づくことができた児童95(%)

視点を示し、学習の学びを自分や友達と比較しながら自分の言葉でふり返る活動を積み重ねていくことで、児童のふり返りには、学んだことだけでなく自分の変容に関する記述が増えてきた。

【時間の経緯】

「大豆」の書き方が変わっている意味をみんなで考えた。3～6段落の大豆は漢字で、7段落の大豆はカタカナで書かれていることに気付いた。はじめの方の段落は見たらすぐ大豆と分かるものが書かれているけど、7段落のダイズは、ダイズとは分からない食品になっていることや、育て方も違うことが分かった。

【立場の変容】

分数と小数の大きさを比べるときは、分数か小数のどちらかにそろえて比べることが分かった。分数か小数のどちらにそろえると比べやすいかは人それぞれだと気付いた。自分は、小数が考えやすいと思ったので、これからは、分数と小数の大きさを比べるときには、小数を使って考えたい。

【既習事項の活用】

もとにする量の求め方を考えました。最初は、どういう式にすればいいか分からなかったけど、前に習った口を使った式にすると式が思い浮かびました。これからは、文章問題にも、比べる数(比)、元にする数(もと)、割合(割り)を書くことを意識する。

【新しい視点の発見】

今日の勉強では、正三角形の書き方が分かった。最初は、二等辺三角形とは違う書き方だと思っていたけど、正三角形も二等辺三角形も書き方は同じことが分かった。次の時間は、折り紙を使って正三角形のつくり方を考えたい。

【基準の更新】

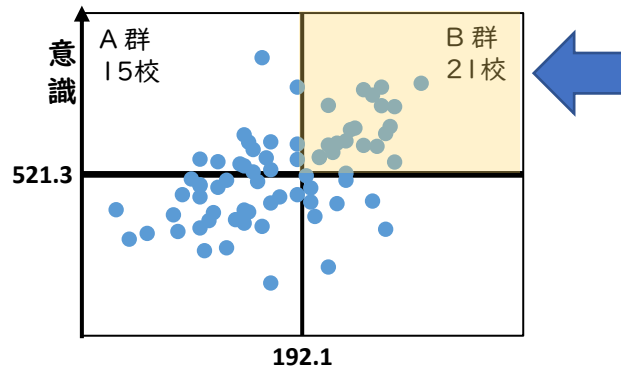
友達にアドバイスをもらおうと、車に乗って水が飲めるようにレベルアップしたのが嬉しかった。自分のアドバイスで友達のクルマをレベルアップできたのが嬉しい。

(3) 検証指標③

ア 「全国学力・学習状況調査」

【正答率】(%) ※ () は国平均

	2019(H31)	2021(R3)	2022(R4)
国語	75.0 (63.8)	62.0 (64.7)	70.0△ (65.6)
算数	70.0 (66.6)	70.0 (70.2)	65.0△ (63.2)
理科	—	—	69.0△ (63.3)
合計	145.0 (130.4)	132.0 (134.9)	204.0△ (192.1)



国語科においては、叙述を基に全体像を捉える問いの正答率が低い。自分の思いを語る場面は重視してきたが、その表現の根拠を叙述に求め具体化していく国語科固有の知についての研究を深めることが必要。

漢字を文中で正しく書くことについて課題がある。作文や短文で意味にあった漢字を書く。

算数科では、目的に応じた数やデータに着目して考察する力が弱い。必要な数に注目し、問題と関連させる。

理科では、現象や分析に対して自分の考えを持つことに課題がある。自分の思いを語ることはできるが、教科の特性に基づいて述べる力が弱い。思考するときには、根拠を明確にして表現するようにする。

イ 「学力の伸びを把握する調査」結果

※()内は市平均

学力を伸ばした児童の割合 (%)	国語		算数	
	6年	5年	6年	5年
	100.0 (77.8)	75.0 (56.6)	78.9 (75.4)	95.0 (71.7)

5年生も6年生も学力を伸ばし、特に6年生国語科では全ての児童が学力を伸ばした。学力の伸びが見られた児童は認知的方略が高い。上位層の児童は学びを維持し、中間層、下位層の児童の学びが伸びている。

自分の学びをふり返り、次の課題を設定しながら思考する授業展開を積み重ねた成果と捉える。

教科固有の知についての研究を深め、児童の思考を柔軟に生かしながらかつなく授業を創る。

常に単元の全体像を描きながら、何のために学ぶのか、この学びを終えると何ができるようになるのかという、喜びに満ちた学びをつなぐ工夫をする。

生活や他教科・領域、児童の興味・関心と学びたい力を関連付けながら、学ぶ必要感に高揚する課題場面を設定する。

多様な表現に触れることができるよう読書活動を推進する。特に、色々なジャンルへの興味を広げることができるよう児童間の読書を交流する「読書のわ」は継続する。

ウ 単元末テスト（学校平均）

	1 学期	3 学期	比較
国語	88	88.6	↑0.6
算数	86.3	85.1	↓1.2

国語では、プリントなどで繰り返し練習することで覚えた漢字は増えている。しかし、意味にあった漢字を正しく事に課題がある。ドリルで練習し、文章の中で意味にあった漢字を使うようにする。また、読み取りでは、物語文や説明文の中で言葉を正しく認識することに課題がある。事前学習で辞書を引いて調べ、授業の中で言葉の共通理解を図ることが大切である。

算数では、「□や△を使った式」「少数のかけ算と割り算」「分数の割り算」「正多角形と円」「文字と式」「円の面積」などに課題が見られる。□や△を使った式では、問題に沿って式を立てることができていなかった。ブロック操作をしたり図を描いたりし、場面を想像できるようにする。計算は、早く正確に計算できないことが課題と考えられる。正しい計算力をつけるため、四則計算を時間内に解くこと練習を行う。図形は、問題から分かる数字を正しい場所に記入できないことが課題である。どの部分の数値を示しているのか共有し、情報を記入することを徹底する。

エ 学力標準テスト（1 月実施） ※△…上回っている、≐…同程度、▼…下回っている

【国語】

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
校内平均正答率	83.9	88.9	74.8	75.2	82.5	68.6
全国平均正答率	78.6	79.8	69.1	69.2	71.7	69.6
評価	△	△	△	△	△	▼
昨年度との比較	-4.5	+10.5	-9.6	+1.6	+9.4	-3.7

6年生は、文の意味にあった漢字を正しく書くことに課題があった。低学年のうちから、6年生に向けて、意味に合う漢字を書くことができるように作文や短文などで練習する。

領域別正答率（全国平均正答率と比較して 物語を読み取る）

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
校内平均正答率	64.4	70.4	62.7	66.7	81.9	71.7
全国平均正答率	67.8	73.7	68.7	70.5	72.0	69.6
評価	▼	▼	▼	▼	△	△

1年生は、言葉を正しく把握していないものがあつた。「涙が出るほど嬉しくなつた」を、本当に泣いたと解答している。今後は、動作化したり絵に描いたりし、具体的に想像できるようにする。

2年生は、誰がどのセリフを言ったか把握することに課題がある。主語を明確にて読むようにする。

3年生は、時を表す言葉に課題がある。文章で、時間の経過を意識していく。

4年生は、() を埋める問題で () 外の語も解答欄に書いている。また、正しく書きぬくことに課題がある。条件をよく読み正しく書く指導をしていく。

領域別正答率（全国平均正答率と比較して 説明文を読み取る）

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
校内平均正答率	77.8	85.2	70.6	76.7	66.7	76.7
全国平均正答率	71.0	71.4	74.6	68.2	70.2	71.5
評価	△	△	▼	△	▼	△

3年生は、中心となる語や文を見つけて要約することに課題があるので、キーワードを意識して問題を解く指導が必要。

5年生は、見出しの言葉（キーワード）と文章中の言葉を比較し、共通点などを見つけることに課題がある。

主語、根拠となる文章を意識させるために、印をつけ、どのように関連づけるのかを交流させる。言葉の意味を理解していないこと、問いにあった答えを書くこと、意味に合った漢字を書くことなどに課題がある児童には、分からない言葉の意味を調べる習慣をつけ、授業で共有させる。問われていることを読み取るためには、「なに」「どこ」などの言葉に注目させて読むようにさせる。読書活動を通して、想像しながら読む力を身につけさせる。漢字は、漢字ドリル、作文、漢字テストなどで繰り返し練習し、意味と合わせて使えるようにする。

【算数】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
校内平均正答率	90.0	74.0	77.9	66.0	79.4	78.8
全国平均正答率	86.0	71.3	71.6	67.2	70.4	74.1
評価	△	△	△	▼	△	△
昨年度との比較	+0.6	-0.3	-3.2	-7.7	+8.0	+1.6

4年生は、図形の問題で平行と垂直と混同し、角の大きさの180度や360度の認識に課題がある。4年生に向けて、形を正しくとらえ、用語を正しく覚えるようにする。

領域別正答率（全国平均正答率と比較して 時刻と時間

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
校内平均正答率	82.1	72.2	72.9			
全国平均正答率	82.3	75.1	75.3			
評価	▼	▼	▼			

1年生は、時と分を読むとき、長い針と短い針を逆に読んでいる。

2年生は、時刻と時刻の間の時間を読むことに課題がある。

3年生は、〇分前を答えることに課題がある。

〇時〇分、あと〇分で何時など日常生活とも関連付け意識的に学ばせる。

領域別正答率（全国平均正答率と比較して 計算）

	1年 3つの数の 計算	2年 かけ算	3年 たし算・ひき 算・かけ算	4年 小数	5年 小数のかけ 算・わり算	6年 分数のかけ 算・割り算
校内平均正答率	76.8	75.0	66.2	72.5	67.5	83.4
全国平均正答率	85.8	72.4	69.8	77.2	64.1	77.7
評価	▼	△	▼	▼	△	△

1年生は、＋が混ざった3つの数の計算をするとき、ひき算をたしている。＋が混ざった計算を練習し、正しく計算する力をつける。

3年生は、(3位数)×(1位数)の筆算のとき、九九や繰り上がりのたし算に課題がある。

4年生は、四則計算に課題がある。正しく早く計算できる練習が必要である。

計算内容をよく見て解く力をつけるために、様々な計算を混ぜて練習させる。文章問題が解けていない児童は自分で図をかくことができず、問題場面を把握していないと考えられる。数を簡単なものに直して考えること、文章にそって図をかくことを指導する。

領域別正答率(全国平均正答率と比較して 図形)

	1年	2年	3年	4年 垂直・平行 と四角形	5年 図形の角	6年 拡大図 と縮図	対称な形
校内平均正答率	92.9		76.5	48.0	54.2	71.7	62.5
全国平均正答率	91.9		66.6	56.6	56.2	76.9	67.6
評価	△		△	▼	▼	▼	▼

4年生は、図形の問題で平行と垂直と混同し、角の大きさの180度や360度の認識に課題がある。

5年生は、三角形が6つできているから 180×6 を選んでいる児童が多く、中央の 360° を引くことに課題がある。

6年生は、縮図に表すときの数値を選ぶことに課題がある。また、線対称を点対称と捉えているので、用語を正しく覚えるようにすることが必要。

図形では、読み取れる数値を書いていることから間違えている児童がいる。分かることはきちんと書き込む指導が必要である。また、どこにどの数値を書いたらいいか理解できるように繰り返し練習する必要もある。

2 成果と課題

本年度、「主体的に学び続ける子どもの育成」を目指し、事前学習を通してじっくり考える時間を設けた。また、「ふりかえり」の記述を通して子どもに自分の学びの変容を自覚させ、教科・領域を横断的に見通して学びを進めた。学びのアンケートの結果から、児童は主体的に学び続ける力がついたと考えられる。児童と計画を立てて学習の見通しをもち、次の学習のために事前にじっくり考え、授業で交流し思考を深めることができた。また、授業での交流を通して、「分かったこと」「これまでの考え方が使えた!おもしろいと思ったこと」「友だちの考え方ですごいと思ったこと」「もっとやってみたいと思ったこと」「これまでよりも深まった・広まったと思うこと」の視点でふりかえることで、学びののび自己評価し、次の学習につなげる児童が増えた。

授業研究では国語科、算数、体育科など様々な教科でICTを効果的に活用した授業を行った。

国語科では、1年「くちばし」や、5年「俳句を作ろう」の学習でICTを活用した。友達にアドバイスをする際には、タブレット内のデータを使い、事前にじっくり考える時間をとり、交流ではよりよい考え方や言葉を交流したり、いい所を見つけたりすることができた。

算数科では、2年「長さ」や、3年「三角形」の求め方、三角形の仲間わけの考え方の発表をモニターを使って交流した。友達の考えと自分の考えを比べて新たな発見をし、考え方の理解をより深めることができた。

体育では、5年がハートレートを活用し運動量を視覚的にとらえ、自分に合った運動を継続する体育を行った。運動量はここによって適切なものがあると知り、自己や他者の理解につながった。また、長く継続的に運動できるようにするには、自分の運動を調節することが必要と体験することができた。6年「ボール運動ゴール型」では、タブレットを使って話し合うことで、自分や仲間、相手の動きを考える活動を行い、思考を深める体育を行うことができた。

総合的な学びでは、他校と本校とをつなぎ、互いに意見を出し合いよりよい表現活動になるよう授業を発信することができた。

4年国語「伝統芸のよさを伝えよう」、なかよし1組自立「みんなでストライク」、なかよし2組自立「今日はあなたが先生です」の学習では、相手意識をもって分かりやすく伝えるために、文章の構造を考えたり、相手が楽しめるルールを考えたりすることができた。

来年度は、児童が自ら課題を見つけ解決する児童主体の授業スタイルをより一層定着させていく。そのために、単元計画を見通し、教科や児童同士がつながるよう、児童と学習計画を立て、ゴールを見通し関わり合う場を設定する。見通しをもつことで、事前に、じっくりと考え、授業で互いの意見を交流し深め、豊かな自己表現力を育むことができる授業を目指す。ふりかえりでは、児童が学んだこと・気付いたこと、学びが変化したことなどを自己評価し自己肯定感を高める、次の学習への意欲につながるようにする。